



大人って何？

まずはタイトルの質問に自分なりの答えを用意してみてください。大人って何？ 20歳以上のこと、酒やたばこが解禁されること、ローンが組めること…といったレベルの答えを求めているのではない。

日本の超一流の哲学者たちが子どもたちの疑問に真剣に向き合った本がある。野矢茂樹編著『子どもの難問』（中央公論社、2013）がそれ。編者の野矢先生は、1954年生まれ、学芸大付属高校から東大へ進み、現在東京大学大学院総合文化研究所教授。ちなみに、著者の一人に田島正樹先生がいらっしゃるが、この方は1950年生まれ、番町小から麴町中、日比谷高校、東大という当時の代表的エリートコースをたどった方で、現在は千葉大学文学部の教授でいらっしゃる。

さて、上記の疑問に、今挙げた野矢先生と東京大学文学部教授の熊野純彦先生（1958年生まれ、栄光学園から東大）のお二人が答えている。ちょっと抜粋して示してみよう。

＊

たとえば、四十歳をすぎた「立派な」大人を指して、「あいつは子どもだ」と言うことがあります。逆に中学に入ったばかりの「ほんの」子どもについて、「あの子は大人になった」と語ることもあるでしょう。

四十面をさげたおとこに向かって「子どもだ」と語る時にも、いろいろなケースがあるでしょう。働こうとしないとか、働いてもじぶんの仕事に責任を持とうとしないとか、相手の気持ちが分からないとか、その他さまざまです。じゅうぶんな検討はできませけれども、「子どもだ」が、すくなくとも批難の意味をこめて口にされる時には、そこでは

たいていの場合、「自分勝手」とか「じぶん以外のことを考えない」といった内容が入りこんでいるように思います。

☆

「一人前」という言い方がある。きちんと仕事ができる人のことだ。まだまだの人は「半人前」と言われたりもする。ふつうは、一人前というのは大人のことで、子どもは半人前だと思われている。でも、「一人前イコール大人」というのは、そんなにぴったり重なるわけじゃない。じっさい、半人前の大人というの、それほど珍しくはない。じゃあ、「一人前の子ども」ってどうかな。

☆

子どもは「自分勝手」ですし、ときとしてひどく「残酷」です。それは無理もないところで、子どもは「じぶん以外のもの」をほとんど知らないし、知る必要もないからです。

じぶんとおなじくらい大切なもの、かけがえのないこと、置きかえのできないひと、そうしたなにかを知ることが、おそらくは「大人」になる入口になるのでしょう。それまではただの「子ども」、ある意味では「幸福な」子どもであった存在が、じぶん以外のもの、こと、ひとを考えざるをえなくなります。じぶんとおなじくらい大事、あるいはもしかするとじぶんよりも大切ななにかと感じてしまうこととなります。（後略）

＊

省略があって読みづらいかも知れないが、私はこの「答え」を素敵だと思う。「自分以外の大切なもの・こと・ひとを見つける時」、それが大人の入口なのであろう。